海辺・川辺調査レポート

名前	島崎　謙(しまざきけん)
学校名	岐阜県明智町立明智中学校
学年	第２学年
年齢	１４才
お手伝いしていただいた方	三宅眞智子（先生）
レポートした場所	岐阜県恵那郡明智町の常磐町付近
レポートの題名	災害と自然環境の整備
内　容	最近の明智川は、水が濁っており、ゴミがたくさん落ちています。これでは、川に住む生物は減るにちがいないと思いました。だから、僕は夏休みの間に明智川の環境整備について調べてみることにしました。 まず、明智の町のほぼ中心を流れている明智川の過去はどうだったでしょうか。昭和３０年代の明智川。この時代の川は、辺りが全く自然のままでした。川の岸には草がはえ、ゴミは１個も落ちていません。きれいな水の中に泳ぐ魚が見えたと聞きます。 しかし、昭和４７年に四七災害という、川を氾濫させる大洪水に遇いました。大水により周辺の岸が大きくえぐられ、町に大きな被害をもたらしました。そこで、二度とこのような災害にならないようにと、災害復旧５ヵ年計画で３面コンクリートで整備した、現在のような状態になりました。しかしそのために、植物も生えにくく、水は規制されることのない生活汚水で、生物は生息することが困難になっていきました。もしも、四七災害がなければ、川は今よりきれいだっただろうと思います。今のような状態ではいけないと、環境整備が計画されました。 この明智川は、次の３つに分けることができます。①上流部分の水の澄んだ川、②中流部を流れる川、そして、③下流部分を流れる川の３部分です。しかし、この３部分の川には大きな違いがあります。①の上流部は、川の水はきれいだけど、辺りは全く整備はされていません。②の町なかを流れる中流部は、明智川の中で最も良くありません。環境整備は、この辺りを中心にして行われます。③の下流には、たくさんのゴミが落ちていました。 明智町の環境整備は、平成１５年以降から実施されます。ワークショップなどを開催して、さらに幅広くたくさんの意見を反映させ、地域に根ざした「川づくり」を考えています。 この環境整備は、計画によると３ゾーンに分類されています。１つは、憩いと遊びのゾーンです。水と緑のある水辺で、安らいだりできる親水性を考慮した整備を心がけます。２つ目は、自然にやさしいゾーンです。ここは、魚や昆虫など

	本来、川に棲む生き物の生息しやすいゾーンです。３つ目は、自然との触れあいゾーンです。ここは、魚や昆虫、緑のある水辺で、川と触れ合える環境を創出するゾーンです。 　この環境整備について、私は賛成です。早く実行させてほしいです。 　昔の明智の町中には沢が流れていて、そこには鯉が泳いでいたようです。その水は川から取り入れられ、町中を流れ、家庭に取り入れられ、また川に注いでいました。その頃は、まさに生活の中に自然が息づいていたと思います。 　いつか最も自然に近い形で明智の川が整備されるよう人間と自然が共生をしていく良い案を提言していきたいと思います。そして、私は、ゴミは絶対捨てない、捨てられたゴミは拾う、ということを必ず実行していきたいと思います。

■　写　真　　名前　　島 崎　謙

資　料　１

昭和４７年災害にあった川　（明智町誌より）

現在の川　（明智町的場）

資　料　２

昔の川　―　駅前付近　（明智町誌より）

現在の川